

フィリピン残留日本人2世名簿作成有識者会議
第二回議題

2011年 1月20日 午後6時～
於:日本財団 8階会議室

1、開会挨拶 高野

2、座長挨拶 河合弘之弁護士

3、議事

3-1 名簿記載基準

- ① 残留2世の国籍回復希望者
- ② 日本人の子であることは明らかだが、入るべき日本の戸籍が無い者
- ③ 各地の日系人会支部が審査し、その審査をクリアした①の残留者2世が掲載対象者
- ④ 生存者
- ⑤ 就籍許可者
- ⑥ 就籍許可者のきょうだい(死亡者も含める、幼児死亡は省略)
- ⑦ ①～④要件を満たした者のきょうだい(死亡者も含める、幼児死亡は省略)

3-2 名簿記載要件

- ① 氏名
- ② 性別
- ③ 年齢
- ④ 日本人父との離別状況
- ⑤ 血液型
- ⑥ 写真

3-3 書式

- ① 中国残留孤児名簿との比較

3-4 フローチャート

河合:各日系人会には審査委員会があり、チェック機能が働いている。名簿の書式について今回有識者から意見をいただき、今後反映させたい。

4、提言概略まとめ

5、次回会議日程

6、閉会挨拶

各有識者の発言

大野:質問ですが、各日系人会が審査委員会でやるということだが、バギオやダバオとそれ以外の日系人会では、差がありすぎるのではないか。実際に機能しているのか。今までの外務省等からの委託調査のときは日系人連合会も絡んでいるが、その点はどうか。

高野:最初の質問については、実際、日系人会ごとに力の差はある。1995年当時の外務省調査では、審査委員会が機能していた。現在もその当時のやり方を踏襲して実施している。調査方法も同じ。小さな支部では、実際、委員会はないにせよ、地元で実際に住む人ならわかるはず。現地日系人会が推薦するPAに聞き取り調査をさせ、支部の責任者も加わって、不明な場合にはさらに調査をするようになっている。

河合:(2番目の質問について)連合会自体が停滞しているので、このフローチャートの中に無理やり入れるのはどうかと思っている。各支部の長を集めるのも大変なので。重要なのは長年にわたる経験に基づくチェック機能である。

高野:付加すると、1995年の調査で疑問のある日系人がいた場合、さらに精度をあげた調査を現在している。

大野:孤児名簿に載せる日系人につき日系人会からの承諾が必要なのでは。

高野:ご意見のとおり、進める。

坂中:今になってようやくこのような活動の実が結んでよかった。感心している。

高畑:日本の外務省がOKになり、フィリピン側がどうなるか、それが今後の課題では。調査方法や手段については言うことはない。

古屋:感謝をこめて、ありがとうございますと申し上げたい。

梅村:調査については、私から申し上げることは無い。名簿の記載基準について、就籍許可者も入っているが、優先順位として、亡くなった方より、生存の方を先にしたほうがよいのでは。

高野:亡くなると就籍対象ではなくなる。しかし、カテゴリーCであることは確か。そういう人も入れたい。

青木:待ち望んでいたこと。フローチャートもこの通り進むといい。現場から気になるのが名簿掲載基準。非嫡出子であるという積極的な証拠があると、現実的に難しいかもしれない。法的に非嫡出子でもいいが、政府としては「まがいもの」とされる懸念がある。

河合:非嫡出子でもはっきり明記して名簿に載せる。裁判で係争中であり、嫡出・非嫡出で国籍回復の差が出るのは憲法違反だ。

高野:セブでは非嫡出子が多い。兵隊の子が多い。

河合:軍人として現地に来て、現地の女性と関係をもつ、そういう人は多いのか。

大野:多い。移民のほうが圧倒的に多いが、軍人の子も多い。

坂中:多いと思います。対馬に行ったんですが、2 週間の間にモンゴルの子がどれだけできたか。勝ったほうの特権みたいなもんだ。

河合:余談ですが、先日レイテ島に行きました。2, 3 万人が餓死したそうです。クラークにも行きました。特攻隊の 1 号機が飛び立ったところです。

坂中:ポルトガルとかスペインだともっとひどい。

大野:2 世は戦後、裏切り者として辛い思いをしてきた。推測だが、外国人登録証と戦前だったのは、戦争が始まったら、国籍があろうが無かろうが日本がこの人を守れという意味だったのでは。

高野:フィリピン外務省の方がお越しですので外国人登録証を探していただけませんか。

河合:それがまとめてあったら随分助かるのだが・・・。

大野:それがわかれば苦労しないです。

坂中:非嫡出子だから入れないというのはおかしい。

河合:2 世生存のみを現在メインにやっているが、死亡した 2 世の子、つまり 3 世からの熱い要請がある。

坂中:日本人の子と 3 世までは定住ビザが下りる。死んだ人も名簿に入れるべきだ。日本政府が日本人を大事にしなくてどうする。

河合:フィリピン戦で、日本人が 111 万人死んでいるというのは本当か

大野:抗日ゲリラが活発だったのが一つ、米軍の無差別爆弾によって全土が戦場になってしまったということが一つあります。

古屋:避難していた教会が爆撃されました。私は目の前でそれを見ました。日本はフィリピンとではなく米軍と戦争をしたのに、多くのフィリピン人が無駄に亡くなった。

河合:市街戦をやったからだ。軍の中でも攻防があつたらしい。ゲリラ戦は市民と兵士の見分けがつかないから。

河合:これらのご意見をもって、次回にむけてこの方向でまとめさせていただきます。他に何かございますか。

大野:外務省・厚労省が頑なだというのは存じている。「孤児」という名称だとフィリピンの実情に合わないのでは。中国と同じでいいのか。

高野:実は事務局では「フィリピン残留日本人 2 世」としている。孤児性を強調するなら、また考えないといけない。

大野:純血性を厚労省は強調し、ぶつ切り切ってくる。これをどうするか。

高野:外務省には第 6 次調査ということで委託を受けている。しかし、報告書で・・・

河合:中国でも母親が中国人の場合、支援してくれない。国費で帰国させないし、定着センターにも入れない。両親が日本人である場合のみが管轄であるといってくる。

ズニエガ:フィリピン外務省と話した際、日本人性を強調すると、フィリピン政府として協力しづらくなるので、その辺のバランスが難しい。

大野:フィリピンでは二重国籍を認めているから、その方向で支援してもらえれば。ペナルティーを免除してもらうなど。日本では日本人だが、フィリピンでは二重国籍で、というふうに認めてもらう必要がある。

坂中:彼らは孤児というより、引揚げるべきだったのに、残されてしまった人。親子関係うんぬんは、亡くなっているから証明が難しい。2 世の人たちが国籍取得するだけで満足しているのか・・・。

河合:今日はこれにて終了です。3 回目で結論ということになります。

高野:年度末ということで、2 月 18 日 4 時からということで決定。